知事記者会見の概要

日　　時：令和4年4月1日（水）11:30～12:05

場　　所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 令和4年度当初にあたって

フリー質問

(1) 発表事項に関連して

＜幹事社：山新・時事・SAY＞

☆発表事項

知事

皆さん、おはようございます。梅の花がほころび、ふきのとうが芽を出し、本県にもようやく春が訪れました。

今年は何度も大雪に見舞われ、低温が続き、大変厳しい冬となりました。そのうえ、新型コロナが猛威を振るい、さらに3月16日の深夜には、最大震度6強の地震まで発生して、東北地方は大混乱となりました。改めて、この度の地震でお亡くなりになった方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

この度の地震で、5名の県民が怪我をされましたが、県内の被害は思ったよりも少なかったということで、隣県への応援を依頼されたところであります。そこで本県から、先ほどの職員訓示では72名と申し上げましたが、実際はいろいろな事情があって述べ69名だったということであります。なお、現在さらに追加の応援要請も来ておりまして、追加の支援を検討しているところでございます。県及び市町村の職員を派遣したところでありまして、福島県知事からはお礼の電話がありました。被災地の一日も早い復旧・復興を心から願っております。

さて、いよいよ本日から令和 4 年度がスタートいたします。パンデミックが始まってから、世界の感染者数は4億8千万人を超えました。日本の累計感染者数は約644万人で、これは国民の20人に1人が感染したことになります。

本県の累計感染者数は約1万7千人でありまして、これは県民の100人のうち1.6人が感染したことになります。このまま行きますと1か月後には50人に1人が感染したことになると想定されます。

最近は、誰もが身近なところで感染者が確認されているのではないでしょうか。

卒業式や入学式などを聞きましても、現場でしっかりと感染対策を行いながら実施をしておられます。私も今年に入って、2回県外出張をいたしましたが、出発前と帰宅後にPCR検査を行いまして、陰性であることを確認してから業務を行っております。

2年前は、正体不明の怪物と戦っているような毎日だったと思います。県民の皆様も不安と恐怖の日々を過ごされていたと思いますけれども、最近はワクチン接種も進んで、マスクなどの基本的な感染防止対策を講じながらではありますが、以前の生活に近い生活を取り戻しつつあるのではないかというふうに思料しているところであります。正しく恐れながら、日常生活を取り戻していく、そういう期間になっていることと思います。

思えば、新型コロナが私たちの生活に影響を及ぼすようになってから、早くも 2 年以上が経過いたしました。

この間、県では、県民の皆様の命と生活を守ることを最優先に、医療提供体制の確保やワクチン接種などの感染防止策はもちろん、地域経済の再生や雇用の維持・確保、困窮者支援などに全力を挙げて取り組んでまいりました。

特に、県内では昨年末に感染力が強いオミクロン株の陽性者が確認されて以降、保育園や学校、高齢者施設などでクラスターが多数確認されるなど、感染の第 6 波に突入いたしました。

1 月下旬には、本県で初めてとなる「まん延防止等重点措置」の適用を要請し、ピーク時は、一日の新規感染者が 350 人まで達しましたが、その後、減少傾向となりました。しかしながら最近は、人の移動も増え、さらに、徐々にではありますが、BA.2 に置き換わりが進んでいる可能性もあり、予断を許さない状況と捉えております。そんな中でも、直近一週間の人口 10 万人あたりの感染者数は、全国でも少ない方から 4 番目につけているところであります。

これもひとえに、医療従事者の皆様はじめ県民の皆様、事業者の皆様、市町村、関係団体の皆様のご努力・ご尽力のおかげと思っております。深く感謝申し上げます。

新年度を迎え、進学や就職・転勤など、今後も人々の移動や会食が多くなるシーズンでありますので、県民の皆様には改めて気を引き締めて、不織布マスクの着用や、こまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行など基本的な感染防止対策を徹底していただきたいと思っております。

今後も新型コロナの感染拡大防止に向けて、油断なく対策を講じていく必要がありますが、これからはさらに、これまでの経験や対策から得た知見や教訓を活かし、感染拡大防止と経済活動を両立させて、ウィズコロナ・ポストコロナの新しい社会を目指していく必要があると考えております。

具体的には、新型コロナを契機に急速に進行しているデジタル化への対応とデジタル人材の育成は急務であります。また、SDG s の視点を生かして、誰一人取り残さない山形県を創っていかなければなりません。「ゼロカーボン 2050」を宣言した県として、2050 年脱炭素社会を目指して、カーボンニュートラルを着実に実現していく必要があります。ウィズコロナの状況にありましても、県政最大の課題である人口減少や少子高齢化は依然として進行しております。

直面するコロナの危機から県民の皆様の命と健康を守りつつ、こういった諸課題に敢然と立ち向かい、大きく傷んでしまった地域経済を再生させて、山形県の元気を取り戻していかなければならないと考えております。

そのための組織体制としまして、幼少期からふるさと愛を育み、県内定着・回帰を促進していくため、しあわせ子育て政策課内に「山形わくわく体験支援室」、また教育庁におきましても、生涯教育・学習振興課内に「郷土愛育成室」を新設いたしました。

また、ポストコロナを見据えた産業経済の振興・活性化を強力に推進していくため、産業労働部の全ての課を再編し、「産業創造振興課」、「スタートアップ推進室」、「産業技術イノベーション課」、「次世代産業振興室」などを新設いたしました。

農林水産部におきましては、「美味い山形流通販売推進室」、「園芸大国推進課」、「専門職大学整備推進課」を新設したところであります。

そして、やまがた強靭化のためには、総合交通政策課内に、「米沢トンネル（仮称）事業化・沿線活性化推進室」を新設いたしました。

さらには、本県全体の魅力を発信するため、「くらすべ山形魅力発信課」、そして令和 5 年度開催に向けた準備を進めるため、「国民スポーツ大会推進室」を新設したところでございます。

このように、新しい組織体制の整備を行ったところであり、この体制で、顕在化した課題への対応や新たな成長分野に積極果敢にチャレンジしてまいりたいと考えております。

こうした取組みを通して、「第 4 次山形県総合発展計画」の基本目標であります、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形県」を実現してまいります。

さて、ここで、今年度の本県における大きな動きやトピックに触れたいと思います。

いよいよ本日から、「やまがた春旅キャンペーン」が始まりますし、同じく本日から、南東北 3 県と JR 東日本が連携しての、春の観光キャンペーンが 6 月 30 日まで開催されます。これを機会に、長らく低迷し、疲弊していた観光産業を復活させていきたいと思います。

また、県が開発した大玉さくらんぼの新品種「やまがた紅王」がいよいよ今年、プレデビューいたします。さくらんぼといえば山形、山形といえばさくらんぼです。さくらんぼ県山形の将来を担う期待の大型新人として、国内外の多くの人々の心をつかむように育ててまいりたいと考えております。

そして、いよいよこの 5 月から、路線バスなどで利用できる交通系 IC カード「チェリカ」が県内で一斉導入され、地域交通の利便性向上が期待されます。東北中央自動車道の東根～尾花沢間が全線開通し、いよいよ、新庄市まで首都圏と高速道路でつながる予定であります。

さらに、8月には、北海道・東北地方では初となる第6回「山の日」全国大会が、本県蔵王を主会場に、「山を想い、山を愛し、山と生きる。～樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ～」を大会テーマに開催されます。これを機会に、山形県の豊かな自然、山の魅力や精神文化を全国に向けて大きく発信してまいりたいと考えております。

こうした新しい取組みやイベントの成果一つひとつを着実に積み上げ、観光誘客の促進や、交流人口の拡大、さらには産業の振興など、今後の本県の更なる発展と飛躍につなげてまいります。

また、今年度は、将来の奥羽新幹線にもつながる、喫緊かつ最優先の課題であります、山形新幹線の「米沢トンネル（仮称）」の事業化に向けた、JR東日本との共同調査を進めることとしております。私は、この「米沢トンネル（仮称）」は、本県の未来を拓く希望のトンネルだと思っております。本県の将来の発展は、まさにこのトンネルにかかっていると言っても過言ではありません。何十年もかかるビッグプロジェクトでありますから、オール山形で、官民一体となって、全ての叡智を結集し、全力で取り組んでいくことが大切であると思います。

結びになりますが、現代は、新型コロナをはじめ、年々激甚化・頻発化する自然災害や、ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮によるミサイル発射といった国際情勢など、将来を見通すことが難しい時代になってきております。

しかしながら、こういう時代だからこそ、私たち一人ひとりがその持てる力を大いに発揮することが強く求められていると思います。パンデミックや不穏な国際情勢も、いつかは終結する時が必ずやってくるのであり、それは歴史が証明しております。次世代のために、子どもや孫の世代のために、私たちはこの時代を乗り越えて、希望と活力に満ちた山形県を実現していかなければならないと考えております。こういう時代に生きることを不運だと思わず、県民の皆さんお一人おひとりの力を最大限に発揮して、私と一緒に新しい山形県を創っていっていただきたいと思っております。

課題山積の中ではありますが、共にこの難局を乗り越えてまいりましょう。今年度もよろしくお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

すいません、山形新聞、田中です。今年度もよろしくお願いします。

来年度の組織体制のことで、知事も触れられたので、昨日発表になった件ではあるのですが、今年度から新たにコロナ克服・経済再生アドバイザーが設置され、5人の方が就任を予定されていると。このアドバイザーという制度を設置された意図であるとかですね、今回は、医療・商工・観光と、この3分野になるわけですけれども、こういった3分野の方々の助言、アドバイスを県政や施策に、どのように反映させていくお考えなのかを教えていただければと思います。

知事

はい、そうですね。新型コロナの状況になってから、もう丸2年以上が経過しているところであります。これまで本当にその時々ですね、感染拡大を防止する対策といったことに全力で取組んできたわけでありますけれども、様々な基本的な感染防止対策、いわゆるマスク生活といったことも定着してきたと思っておりますし、またワクチン接種も進んでまいりました。治療薬が待たれるところでありますけれども、こういった中でやはり、経済再生といったことにも力を入れていかなければならないというふうに考えております。もちろん県民の皆様の命と健康を守る、そういった感染防止対策と経済活動を両立させるということに力を入れていきたいということであります。

その際ですね、5人のアドバイザーの方を見ていただくと分かるのですけれども、やはり感染防止対策といったことでは専門の医療界からお二人でございますし、あとは、商工会議所、商工会の代表と観光業界の代表ということでありますので、いわゆる経済界の代表というふうに捉えていただきますと、経済の状況をお聞きするのはもちろんでありますけ

れども、前向きなアドバイスといったことも頂戴しながら、これはそうですね、毎日ということではないのですけれども、例えば、月1とかあるいは状況の変化に応じて、その時々に合わせてということになるかと思っておりますが、アドバイスを頂戴しながら、それをですね、臨機応変に機動的に県政に反映させていければというふうに考えているところでございます。

記者
　ありがとうございます。先ほど知事のご発言の中でコロナから2年以上が経過してですね、やはりポストコロナであるとか、ウィズコロナを展望した山形を創っていく必要があるんだと、デジタル人材であるとか、SDGｓとか、様々ありましたけれども、このアドバイザーの方々は、県のポストコロナ、ウィズコロナを見据える上で細かい施策内容というよりことよりも方向性を助言してもらうようなイメージになっているのでしょうか。

知事
　いえ。この皆様はですね、やはりあくまで、コロナ克服・経済再生アドバイザーでございます。もちろんポストコロナを見据えた施策に関するアドバイスも頂戴できればと思っておりますけれども、このウィズコロナでの感染防止対策、そして、経済活動との両立そういったことに力点を置いたアドバイザーということになろうかと思います。

記者
　ありがとうございます。そうすると、例えば感染抑止策と経済対策、観光キャンペーンであるとか、事業化支援であるとか様々あると思いますけれども、県が行っている施策の方向性の正しさを確認するみたいなイメージになるのでしょうか。

知事
　そうですね、あくまでやはり、コロナという状況下での対策や、また経済界のいろいろな対策、そういったことに力点を置いたアドバイザーということになるかと思っています。その先のポストコロナ、そういったことに対しては、またですね、やはり産業界でありましたり、様々な方々からも、まず現場というところをしっかりと職員及び私も、現場の声というものをお聞きしながら、そしてまた、全国・世界、国内外の情勢というものも踏まえながらですね、先を見据えた施策もしっかり考えていきたいというふうに思っております。

記者
　ありがとうございます。

記者

共同通信、阪口です。今年度もよろしくお願いいたします。

まず、今の冒頭の発言にも時間を割かれたのは、やはりコロナだったかなと思うのですけれども、県内の感染状況、一時期落ち着いたかなと思いつつ、また200人になったりとか、巷では、東京のほうではもう、第7波という言葉も聞かれるような状況になっております。このような状況を、年頭の記者会見に絡めてということなのですけれども、知事はどのように分析されているのか、どのように今感じていらっしゃるか伺えますでしょうか。

知事

はい。リバウンド防止といったこともやってまいりましたけれども、なかなかやはり収まらないという状況が続いていると思います。

ピークの350人というようなところまでには、もちろんリバウンドはしてございませんけれども、2日間ほど2桁にようやくなってきて順調に減少していってもらいたいと思っていた矢先でありますが、また200人台が何日か続いて、今日は170人ということでございます。

そのなかなか収まらない原因として、やはり全国のまん延防止等重点措置がですね、解除されて人の移動がこのシーズン大変多くなっているということもありますし、BA.2がですね、置き換わりがおそらく徐々に進んでいるのではないかというふうに思っています。医療統括監から聞いているところですけども、村山地区は2割、3割ぐらいが置き換わっているようだというようなことも聞いておりますので、やはりじわじわと、さらに感染力の強いBA.2に置き換わっているという状況もあるというふうに分析をしております。しっかりとその状況を見ながらですね、対策を行っていかなければならないと思っているところであります。

ただ、この場で言わせてもらいますと、3回目のワクチン接種がですね、3回目を接種すれば感染しないというようなことではないようでありますけれども、重症化は防止できるということがイギリスなどのデータではっきりしているということでありますので、やはりそういった追加接種というものをしっかり前に進めていきたいと思いますし、まだ1回も接種していないというような方はですね、お体の事情で打てないというようなそういう方は別としまして、今からでも希望する方は1回目も接種できますので、重症化しないためにもですね、接種を進めていくというようなこともやはり市町村と連携してしっかり進めていきたいというふうに思っています。

記者

あともう1点。全然話が変わるんですけど、知事、今歩いていらっしゃったので、足の状況は新年度になって歩いていらっしゃるのでだいぶ良くなられたのかなと思いまして、伺えればと思いまして。

知事
　ありがとうございます。大変県民の皆様にもご心配とご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。
　5月にCTを撮ってどのようになっているかを診ていただけるということになっております。なかなか思うようにリハビリがまったくできない状況でありますので、なかなか思うようには治っていないのかなと自分では思っておりますけれども、ただ、少しずつですね、なるべく車椅子に乗らないようにしたり、なるべく歩くというようなことも心がけて一日も早く元通りになりたいというふうに思っているところでございます。
　本当にいろいろとご心配をおかけしてしまって大変申し訳ありませんでした。

記者
　お大事になさってください。ありがとうございます。

知事
　はい、ありがとうございます。

記者
　NHK、金敷です。よろしくお願いします。
　知事、最初にお話されたコロナについて、今の質問にもありましたけど、リバウンド対策、最初のご挨拶の中ではポストコロナの話とかもありました。
　いろいろ課題も触れられておりましたが、まずはどういったところに今年度力を入れていきたいかというところでまずはお伺いさせていただきたいのですが。

知事
　コロナに関してですか。

記者
　いや、県政運営という意味で、まずどういったところに力を入れていきたいか。

知事
　そうですね、やはり目の前のずっと続いている課題というのはやはりコロナ対策と経済回復の両立だというふうに思っています。その経済との両立、経済活動を両立させるということで言いますと、中で申し上げましたけれども、今日から4月、新年度に入りましたけれども、県民の「（やまがた）春旅キャンペーン」が今日から始まります。また、南東北3県とJR東日本との連携しての春の観光キャンペーンというものが6月30日まで開催される予定であります。明日そのイベントも行われる予定であります。

本当に観光業界がですね、疲弊をしておりますので、でき得る限りこういったイベントやキャンペーンというようなことを取り組んで、元気と活力を取り戻していきたいというふうに思っているところであります。

それから東北・北海道では初となる「山の日」全国大会、これが8月の10日、11日の2日間だと思いましたけれども、本県の蔵王を主会場に開催されます。これもですね、やはり山形県の山の魅力、自然の美しさ、山岳登山、また環境の大切さといったことをしっかりとPRできるイベントになるかと思っていますので、成功できるように取り組んでいきたいというふうに思っております。当面のことで言えばですね。

あと、「やまがた紅王」がとうとうプレデビューということになりますので、これから霜の心配もしなくちゃいけないんですけれども、ぜひ天候にも恵まれて無事に大きく育つことを願っております。県民の皆様、全国の皆様に山形県の期待の大型新人、紅王を楽しんでいただけたらというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

YBCの新野と申します。よろしくお願いします。

大きく2点、一つはアドバイザーについてなんですが、昨日まで特命補佐という形で若松さんがいらっしゃったわけですけれども、特命補佐との職務上の違いですとか、あとは具体的に業務を引き継がれるのかとか、その辺のところはどうお考えでしょうか。

知事

細かなところまでは答えられるかわかりませんけれども、大きな違いというのはやはり特命補佐というのはまず1人でありましたし、ほとんど常勤ということでありました。また、現場へ赴いてもらって各部局へのアドバイスといったことも行ってもらいましたけども、今度のアドバイザー制度はですね、5人ということで複数になってございます。また、医療界とそれから経済界というふうに特定をしております。そして常勤ではありません。その時々ということになりますし、おそらく月1ぐらいの頻度になるかもしれないというような状況であります。私に対してアドバイスをしていただくということになります。そういったところが大きい違いかなと思います。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

共同通信の阪口です。ごめんなさい、もう1点だけ。

先ほどちょっと観光の話にもあったので、この週末にJRの山形新幹線がようやく地震から直りそうだということで、明日、一応全面（開通）ということだと思うんですけれども、それについて何かご所感、改めてこの山形新幹線の重要性についてどのようにお感じになったのか、観光にどのような影響があったのか、その辺りの所感を伺えますでしょうか。

知事

はい。3月16日の地震で、それに起因して東北新幹線が脱線するという大きな事故がございました。それでその影響で宿泊などはキャンセルがたくさんなされたということを聞いたところであります。

そういった影響が大きかったなというふうに思っておりますし、多分明日から全部が復旧するわけではないですけれども、一部復旧ということで本当に私もホッとしております。

先般、公務で上京しましたけれども、その折も新幹線を使う予定だったのがダメになりまして飛行機で行ってまいりましたが、飛行機は行きも帰りも満席でありました。臨時増便というようなこともありましたけれども、やはりそれではとてもとても間に合わないというふうに思いました。出張あるいは帰省、いろいろな場面で大変多くの方々が足止めを食らったといいますか、予定を変更されたというふうに思っています。

それが明日から少しでも回復するというようなことで、またたくさんの移動する方々の足となってですね、県と首都圏とを結んで、つないでもらえることになりまして、春のキャンペーンも始まりますので大変プラスの影響が出ることを期待しております。

本当に雪も解けましたし、気候も本当に低温が続いて大変だったと思いますけれども、桜の花もこれから、山形県は開花が10日頃と聞いてますけども、本当にいいシーズンになってまいります。感染拡大防止、そういった防止策を徹底しながらではありますけれども、やはり多くの皆さんが山形の自然、いろいろな地域資源を楽しんでいただける、また県民もですね、様々な事情で移動する、進学、就職、転勤、そのほかの様々な移動があると思いますので、山形新幹線は大事なその移動手段であります。復旧してくれるということで大変ありがたくホッとしているところでございます。